

物質フロー会計及び資源生産性に関する国際専門家会合 (平成 15 年 11 月 25 日～26 日 東京)

1. はじめに

昨年、ヨハネスブルグで開催された持続可能な開発に関する世界首脳会議（WSSD）において、持続可能な生産・消費形態への転換を加速するための地域及び国のイニシアティブを支持する計画に関する 10 年間の枠組みの策定が奨励されました。持続可能な生産・消費形態は社会経済全体の資源生産性の向上と密接なつながりがあることから、資源生産性について国際的な手法・指標が必要であると考えられます。

そこで、本年 4 月にパリで開催された G8 環境大臣会合において、我が国は物質フロー会計及び資源生産性に関して、共通手法の確立を検討するための国際共同研究プロジェクトを開始することを提案し、各国から注目されました。

また、6 月の G8 エビアンサミットにおいても、特に OECD において、物質フローについての理解を高め、資源生産性指標についての作業を継続する旨の記述が、G8 実施行動計画（持続可能な開発のための科学技術）に盛り込まれました。

以上のような経緯から、環境省は、物質フロー会計及び資源生産性に関する国際専門家会合を 2003 年 11 月 25 日から 26 日に東京・三田共用会議所において開催いたします。

2. 目 的

本会合の目的は以下のとおりです。

- 物質フロー会計及び資源生産性に関する国際的、地域的および国内的取組についてのレビューを行うこと
- 国際的重点課題、共同研究の内容について検討すること
- 今後の共同研究の進め方を提案すること

3. 概 要

日 時：平成 15 年 11 月 25 日（火）～26 日（水）

場 所：東京・三田共用会議所

出席者：物質フロー会計、資源生産性に取り組んでいる国・団体等の専門家で、原則として各国政府・団体から推薦された者

内 容：

- 1 日目（11 月 25 日）：物質フロー会計及び資源生産性に関する国際的、地域的、国内および地方の取組についてのレビュー（G8 / OECD / 非 OECD 各国、国際機関、地方自治体、民間企業等からの発表）
- 2 日目（11 月 26 日）：1 日目の発表を踏まえた国際的重点課題、共同研究の内容に関する議論

プログラム(案)

< 1日目：11月25日(火) >

セッション1 オープニング(10:00-12:00)

座長：仁井 正夫(環境省、日本)

開会の挨拶	炭谷 茂 (環境事務次官、日本)
日本の循環型社会形成推進 基本計画について	南川 秀樹 (環境省廃棄物・リサイクル対策部長、日本)
経済全体の物質フロー会計と 資源生産性	Dr. Stefan Bringezu (欧州環境庁/ヴッパタール研究所、ドイツ)
我々の物質に注意を払う：大胆な ビジョンと控えめな提案	Mr. Frederick W. Allen (環境保護庁、アメリカ)

プログラム(案)

セッション2 国や機関における様々な取組 (13:30-18:00)

座長：森口 祐一 (独立行政法人国立環境研究所、日本)

2-1 国レベルの物質フロー会計及び資源生産性に関する G8・OECD 加盟国等の取組 (13:30-15:10)

物質・エネルギーフロー会計 - カナダ統計局の取組	Mr. Martin Lemire (統計局、カナダ)
イタリアにおける物質フロー会計の公式統計と政策利用の発展	Dr. Aldo Femia (国立統計研究所、イタリア)
環境情報と指標 - これまでの作業と経験	Ms. Myriam Linster (OECD事務局)
[報告] オーストラリアにおける物質フロー会計に関連する取組	Mrs. Jenny Boshier (環境・遺産省、オーストラリア)
[報告] 物質フロー会計と政策評価 - フランスの現状と学んだもの	Mr. Xavier Delache (エコロジー・持続可能な開発省、フランス)
[報告] 韓国における環境会計の取組	Dr. Jong-Ho Kim (国立環境研究所、韓国)
[報告] 持続可能な消費・生産のモニタリング	Mr. John Murton (在日本イギリス大使館、イギリス)
[書面報告] 物質フロー会計 -2003年のスウェーデンの経験	Dr. Viveka Palm and Dr. Annica Carlsson (統計局、スウェーデン)

プログラム(案)

2-2 その他の取組 (15:40-18:00)

物質フローのグローバル・ネットワークにおける地域の役割： 欧州、中南米、東南アジアの事例	Prof. Marina Fischer-Kowalski (ウィーン大学、オーストリア)
中国における循環経済の 発展の促進：戦略と 物質フロー会計及び資源生産性	Ms. 周 国梅 (国家環境保護総局、中華人民共和国)
循環型社会の構築と資源生産性	Dr. Steve Halls (国際環境技術センター、国連環境計画)
あいち資源循環型社会形成 プランと県における物質フロー	稲垣 隆司 (愛知県環境部廃棄物対策監)
ゼロエミッション社会を 目指したトヨタの環境取り組み	川口 隆守 (トヨタ自動車株式会社環境部担当部長)
持続可能な消費・生産への ライフサイクルアプローチ	稲葉 敦 (独立行政法人産業技術総合研究所 ライフサイクルアセスメント研究センター長)
物質フロー会計/分析に関する いくつかの経済的な面	植田 和弘 (京都大学大学院経済学研究科教授)

プログラム(案)

< 2日目：11月26日(水) >

セッション3 物質フロー会計及び資源生産性に関する共同研究課題(09:30-15:00)

座長：森口 祐一(独立行政法人国立環境研究所、日本)

循環基本計画策定過程において 明らかになった論点	松野 裕 (明治大学経営学部助教授)
-----------------------------	-----------------------

3-1 物質フロー会計及び資源生産性の利用と可能性(10:00-12:00)

下記のような点(暫定的)について議論 国レベルの物質の生産・利用の水準や効率を把握する意義は何か 物質の生産・利用の水準もしくは効率を把握するための適当な指標は何か 物質利用の国際化による懸念は存在するか 物質フロー会計の成果を様々なレベルの政策等へ適用する意義は何か	
[話題提供] 天然資源の持続可能な使用につ いてのEUの主題的戦略	Mr. Pawel Kazmierczyk (欧州環境庁)
[話題提供] 物質フロー会計：目標への取組	Dr. Iddo Wernick (世界資源研究所)

3-2 物質フロー会計及び資源生産性の技術的課題(13:30-15:00)

下記のような点(暫定的)について議論 物質フロー会計の類型化 国レベルのバルク物質フロー会計手法の標準化(隠れたフローを除く) 国レベルのバルク物質フロー会計手法のその他の課題 物質フロー会計指標の標準化 国レベルの物量投入産出表 物質フロー会計を実施するための仕組み 物質フローに係る目標水準を設定するための手法	
[話題提供] 物量投入産出表(PIOT)を 作成する理由とその手法	Dr. Aldo Femia

セッション4 今後の進め方について(15:30-17:00)

座長：森口 祐一(独立行政法人国立環境研究所、日本)